



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒

（重点目標）自らよく考え、やり抜く生徒 ～夢の実現～

原町三中だより

令和2年2月12日（水）
第35号
発行責任者
校長 鈴木 太
電話 22-3802

民謡手踊り ～まちづくり出前講座～

2月6日（木）の3校時に、遠藤トモ子様を講師としてお招きし、音楽の授業で民謡手踊りを指導していただきました。相馬二遍返しの踊り方や扇子の使い方を教えていただき、先生に合わせて全員で踊りました。遠藤先生からは、「三中の生徒はみんなまじめで、覚えが早いですね。」とお褒めの言葉をいただきました。生徒の皆さんにとっても、相馬地方の昔の人々の文化や歌の意味を知ることができ、貴重な体験になったと思います。



第3回新聞タイム ～情報活用力の育成のために～

2月5日（水）、3回目の「新聞タイム」を実施しました。朝日中高生新聞の記事から、どのクラスの生徒も自分の興味をもった記事を選んで、真剣な表情で意見や感想をまとめていました。

これからの時代に必要とされる「情報活用力」を育てるには、新聞を活用することが大切だと言われています。新聞記事から情報を正確に読み取り、論理的な思考を巡らせ、自分なりの考えをまとめることができるように指導していきたいと思います。



新聞タイム3年生

〔3年生の感想より〕

○櫻井美佳さん 「iPS心筋シート 世界初移植」を読んで

私が気になった記事は大阪大学で世界で初めて iPS 細胞を心不全の患者の心臓に移植した記事です。iPS 細胞は、様々な組織になれるとても素晴らしい細胞です。私は、今回のこの移植が成功すれば、同じ心不全を患っている人にとって希望の光になると思います。iPS 細胞を心臓に移植された患者さんは、経過は今のところ順調だということなので、iPS 細胞によって心不全の患者を助けることができたというような実例ができあがるのではないかと思います。

私は将来、医師という職業に就きたいと思っていますが、患者を救っているのは医師だけでなく、医学の進歩のために活躍している研究者の存在があるからこそだなと思いました。医師と研究者が手を取り合って、iPS 細胞を見つけ、研究をしていくのが研究者の役目、その細胞を患者へ移植し、その患者の「その後の経過」を見るのが医師の役目。このようにそれぞれの役目があり、それによって命が守られ、救われているんだなと感じました。これから先の未来では、iPS 細胞が認められ、多くの人々を救ってほしいと思うとともに、自分の憧れの職業への思いもより一層強くなりました。

○佐藤颯紀さん 「森林火災、どこまで続く」を読んで

私は問題になっている異常気象についてまとめようと思いました。まず、この記事を読んでとても印象に残ったところが3つあります。1つめはオーストラリアの山火事の原因についてです。普通は、自然発火や雷、人為的なもので起こりますが、今回は平年の日中最高気温よりも高く、雨不足による乾燥が山火事の原因でした。このことから私は地球温暖化が進んでいるのだと強く感じ、これからの地球はどうなってしまうのか、とても不安になりました。

2つ目は、オーストラリアに生息する140種類以上の生き物たちなどについてです。この山火事によって、33人以上の死者や12億匹以上の野生生物が犠牲になってしまいました。しかし、生き残った生き物たちも手足に大やけどを負ったりなどして、大規模な山火事だったことが伝わりました。でも、森林火災が収まっても焼け焦げた森は直りません。森が直らなければ、生息する生き物たちが絶滅してしまうかもしれません。私は、これ以上動物が減ってしまうのは環境に良くないと思いました。

3つ目は、火災面積が今よりも76%増加してしまうということです。温暖化の進む中でどのように対策をしていくか、これからの世代を担う私たちにとってはとても重要なことなので、しっかり受け止めて考えていきたいと思っています。また、自然環境のために、私ができることからやっていきたいと思っています。